



人生諦めたら、
女の子で
新世界スタート!?

「はあ……」

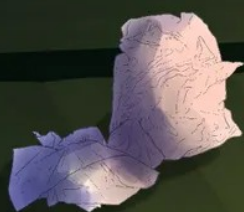
毎日毎日……同じことの繰り返し……

遅くまで仕事して、帰ったら適当に飯食って寝るだけ……

趣味に費やす時間もなければ気力もない……

なんで、俺は生きてんだ……？

「ふう……はあ……」
なんとなく、寝る前にスマホ見て……
ち●こ弄って、抜いたら寝る。
気がつけば朝だ……。



もう、俺に楽しい日が来ることはないのかな？
いつぞ……このまま……

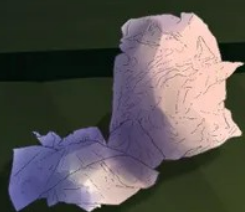
「はあ……」

ため息ばかり出るな……

「疲れた……寝よう……」

起きたらあの世だったら……いいな……

そうすれば……もう会社にもいなくてすむし



睡眠薬って…大量に飲んだら…
●ぬんだっけ？
わかんねえや…
もうどうでもいいや…

サシ…



やば……
気持ち悪い……
やっぱり飲みすぎると●ぬのかな……？
意識が……朦朧とする……
視界が……暗く……
「ああ……ああ……」
もう……ダメだ……



「おーん」

ん？

「もしもー」

なんか…聞「える…

女の声…？

「聞「えるー」



誰……？

俺……どうなった……？

あの後……意識が朦朧として……

「起きた？」

そうじゃなくて……この声は？





「ふふ♡やあ♡」
「やっと起きてくれた♡」
「え……？」
誰……？
わからん……？

不思議な感覚だ……
俺の部屋に知らない女の人があるのに
怖さを感じない……
感じるのは……謎の安らぎ……？
ああ……もしかして、俺……
あの後、●んで……迎えが来たって……
じゃあ、この子は……
「天使……？」



「天使？♡」

「あはは♡面白いことを言うね♡」

「その逆だよ♡悪魔さ♡」

「君の願いを叶える代わりに命をもらいに来た」

「あのまま●なれたら、ちよつと勿体無いからね」

「私がその前にいただきに来たんだよ♡」

「え……よくわからないですけど……」

「あなたは悪魔で、俺の命を取りに来た。」

「代わりに願いを叶えてくれるって……」



「ふふ♡ちゃんと理解してるじゃん♡」
「そうだよ♡1つだけ♡」
「君の願いを叶えてあげる♡」
「なんでもいいや...」
「どうせ●ぬなら...」
「わかりました...」



「話が早くて助かるよ♡」
「じゃあ、俺の願いは……」
「ああ言わなくてもいい♡」
「言わなくてももうわかってる♡」
「私は悪魔だ……なんでも知っているよ♡」
「きっと素敵な世界になるよ♡」
「事が済んだらすぐにでも叶うさ♡」



「それじゃ…君の命をいただくんだけどね」
「デクノブレイクって知ってるかな？♡」
「この世界ではそんな言葉があるんだってね？♡」
「過度な射精でそのまま●んでしまうとか♡」
「この方法で命をもらおうよ♡」
「気持ちいい状態で●ねるとか最高だよね♡」



「でも…俺が死んだら」

「俺の願いつて…」

「ああ♡大丈夫♡」

「特に君の場合は♡」

「安心して●んでくれて構わない♡」

「悪魔はちゃんと約束を守るから♡」



「それじゃ……♡」

「おち●ち●……勃たせるね♡」

!?

なんだ……?

身体が急に火照ってきた……?

動悸も早く……なんだこの感じ……!

「悪魔と今からエッチするんだよ?♡」

「君の意思とは関係なく命尽きるまで」

「興奮状態にさせてもらうよ♡」

「たくさん気持ちよくなるうね?♡」

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



「私の尻尾でシンシンしてあげる♡」
「きつと気持ちいいよ♡」
「自分でするより…ずっと…♡」
「あっ…」
ち●こに何かが巻きついて…
これが…尻尾の感触？



「ふふ♡不思議そうな顔してるね♡」
「尻尾でされる事なんてないもんね♡」
「出したくなったら出してもいいからね?♡」





「はぁ♡ふふ♡」

「気持ちいい?♡」

「あっ……あ……」

「気持ちいい……なんだこれ……」

「やばい……これ……やばい……」

ぞくぞく……

ぞくぞく……

ぞくぞく……

ぞくぞく……

ぞくぞく……



「苦しそうだね?♡」

「我慢してる?♡」

「我慢なんてしないで...」

「気持ち良さに正直になっていいんだよ?♡」

「そしてびゅーびゅーって射精していいんだよ?♡」

「ほら♡ほら♡」

「おち●ち●...気持ちいいね♡」

ドキ

ドキ

はぁ♡♡

くちゅ

びゅん

はぁ♡♡

くちゅ

びゅん

びゅん

びゅん

くちゅ



「あつ!がつはあ...」

「尻尾でシコシコされるの気持ちいいでしょ?」

「ほら♡シメン♡」

で、出そう...

「息荒いよ♡」

「限界?♡出しちゃうっ♡」

「いいよ?♡たくさん出しちゃうっ♡」

ぞく...

ぞく...

すまの♡

すまの♡

くちゅ

くちゅ

くちゅ

ぞく...

くちゅ

くちゅ





「はあ…はあ…」

「流石に一回じゃ●ないよね?♡」

「もっとたくさん楽しみたい♡」

「まずは…1回目♡」

「もっと沢山射精してね?♡」

はあ♡

はあ♡

ぐちゅ

ぴん

ぐちゅ

ぴん

ぐちゅ



「次はお口してあげる♡」

「精子まみれのおち●ち●も綺麗にしないと♡」

「でも…あんなに出したから勃たないかも…」

「つてあれ…?」

「ふふ♡私、悪魔だよ?♡」

「悪魔の前でそんな事関係ない♡」

「●ぬまで勃起が止まらないから♡」



「安心して射精しまくってね?♡」

「はぁ♡精子のニオイ♡」

心拍数が上がっていくのがわかる...

本当にこの子は...

それに、これが夢じゃないなら俺は...



「はむ♡んん♡」

「うっ！ああ……！」

温かい……口の中……

啜えられるのってこんな感じなの……？

こんなに気持ちいいんだ……

ぐしょ

びしょ

びしょ

びしょ



舌が...

ち●こに絡みついて...

ヌルヌルで...温かくて...

やばい...こんなの...

『ふふ♡また出そうになつてきた?♡』

『でも次は少し我慢してみる?♡』

ぐちゃ

ぐちゃ

びく

びく

ぐちゃ

ぐちゃ

びく



「君のおち●ち●と私の口♡」
「どっちが強いかな?♡」
「それじゃ10秒我慢してね?♡」
「10秒耐えたら:」



「うん」

「何がいいかな?♡」

「考えておいで?♡なんでも聞いてあげる?♡」

「それじゃスタートね♡」

くちゅっ

くちゅ

くちゅ

くちゅっ





「んんっ!?!♡」
「あっ!はあああ!」
「ぐいっひっおっ♡♡」





「でもすごく濃くて美味しかったよ?」
「ちそうさま♡」
「はぁ♡あぁ...♡」
「まだまだこれからだよ?♡」
「ちょ...ちよつと...休ませて...」



「ダメだよ?♡」

「休むなんて♡」

「でも…こんな連続で…出した事…」

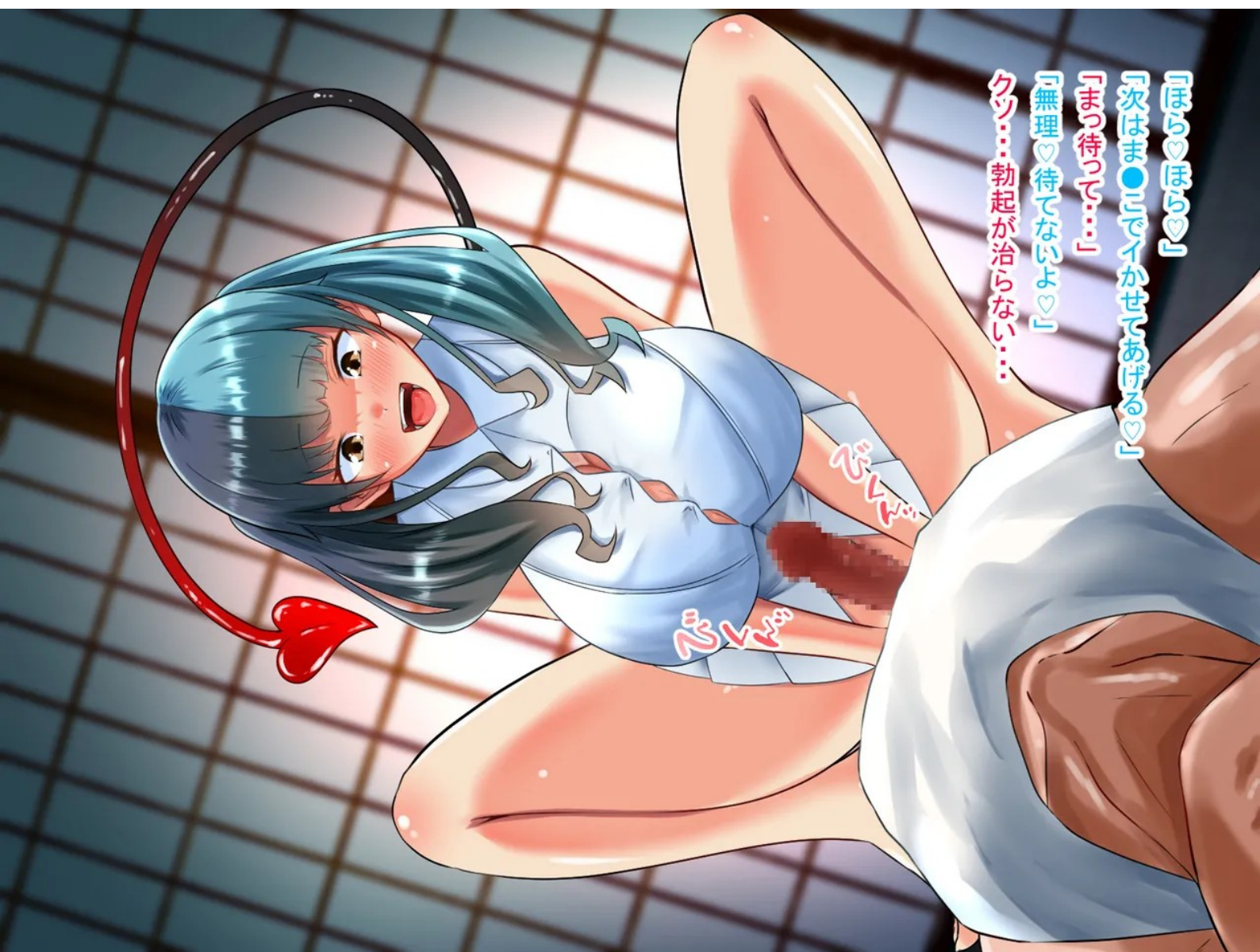
「それに…このまましたら…本当に…」

「うん♡ぬね♡」

「だから最初から言ってるでしょ?♡」

「沢山射精して…♡んで?♡」

「ほら♡ほら♡」
「次はま●こでイかせてあげる♡」
「まつ待つて…」
「無理♡待てないよ♡」
クツ…勃起が治らない…



「悪魔とセツ ● スできるなんてラッキーなんだよ?♡」

「君のつまらない人生で女の子とした事なんですよ?♡」

「最後に私と出来てよかったね♡」

「そうだ…俺の…人生…」

「確かに…なんで…こんな人生に未練があるみたいに…」

「最後に、気持ちよくなれて…●ねるなら…いいじゃん…」



「ふふ♡覚悟が決まったみたいなき感じ?♡」
「じゃあ…もう余計な事は考えずに…♡」
「気持ちいい事だけ考えよう?♡」
「…はい…」
「それじゃ…入れるよ♡」



「はぁ♡入ってくる……♡」

「うっ……くっ……!」

「この包まれるような感じ……」

「これがま●この中……」

「口の中とは違う温かさにヌメリ……」

「俺は……この感覚を知らないまま●ぬつもりだったのか……?」

「ああ♡全部入ったよ♡」

「これでもう童貞じゃないね♡」

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

ふんっ

ふんっ





「どう？私の中……？」

「すごい……ま●この中……」

「全体から来るような圧力……」

「何もしなくても出そうになる……」

「こんな感じでおま●こに力を入れたり……♡」

「力を抜いたりするだけでも……気持ちいいでしょ？♡」

「……はい……あつ……」

びんぽん

びんぽん

びんぽん

びんぽん

びんぽん

びんぽん

「ふふ♡ちよつと出ちゃった?♡」
「これから動くけど...」
「出ても止めないから♡」
「ここで君は最後だから♡」
「●ぬ瞬間まで気持ちよくなつてて♡」
「じゃあ...動くね♡ふふ♡」



「ああ♡んっ♡」

「おっ!?!うっ!?!」

「にひひ♡すごい?♡」

「おま●こがおち●ち●を舐めまわしてるよ?♡」

「気持ち良すぎて●んじやうかな?♡」

ダメだ…これは我慢なんてできない…

力が入らない…!!





「んっ!♡」

「あはは♡出てる♡」

「おま●の中に精子がびゅーびゅーしてる♡」

「私の子宮めがけて出てるね♡」

「いいよ♡もつと出して♡」

「あっ!ああああ!」



「あつああ……はあ……」

「すごい♡音がすくエッチになってきた♡」

「愛液と精子が混じったエッチな音♡」

痛い……ち●こが痛い……のに……

気持ちいいが……ずっと……

もっと……出したい……

ま●この中にもっと出したい……!!



「はあ♡はあ♡」

「まだ意識あるんだね♡すこいね♡」

「頑張ってるね♡」

「じゃあ…頑張ってる君のサービス♡」

「おっぱいも見せてあげる♡」

「すこい…これが…生のおっぱい…」

「もしかしておっぱいもみた事なかった？」

ドキ

ドキ

ハム△

ドキ



「あっ♡んっ♡」

「もうおち●ち●がもっと大きくなった♡」

「おっぱいでさらに興奮したの?♡」

「かわいいな♡」

ああ…意識が…遠く…

嫌だ…もっと…もっと…



「ああああ♡」

「また射精♡♡」

「まだこんなに出してくれるの?♡」

「熱いのがどんどん入ってる♡」

もっと…セツ…ス…

セツ…ス…したい…



「まだ♡まだだよ…♡」

「もっと…出して♡」

「…」

声が…遠く…

「…」

「もっと♡出して♡」

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん



「……」

「もう……ダメかな……?♡」

「ふふ♡」

「楽しかったよ♡」

「さようなら♡」

「そっちの世界では元気だね♡」

「……」



「ああ……」

朝か……

変な夢を見た気がする……

どんな夢だったわけ……？

なんか、エロい感じだった気はするんだけど……

思い出せない……

キン

キン

「はあ」
学校か…めんどいな…
着替えて出ないと…



「ん？学校……？」
あれ……？
なんか違和感……？
私って……？私？
あれ……？なんか……段々……
思い出して……





「えええ!?!」
「あれ?あれ?」
「俺!?!わ、私!?!」
「身体!?!あれ!?!なんだ!?!」
「どういう状況だ...?」

あつ…まさかあの時の…

「きつと素敵な世界になるよ♡」

「事が済んだらすぐにでも叶っせ♡」



「私が望んだ…世界…」
「マジか…じゃあ…」「いつて…」
不思議だ…知らないはずなのに…
ここを知ってる気がする…
「あつ…制服…」
「あれ…私のか…」

100



それにしても…

「やわらか…」

あの時は、見れたけど、触ることはできなかったな…

まさか、初めて触るおっぱいが自分のとは…

でも、これはこれでいい…



「学校…行ってみるか」
学校までの道もなぜだかわかる



「おお……」

本当に女の子だ……

すごい……これが私なんだ……

これからはずっと……

せつかくだからちよつと……

この身体を……

って……時間ないじゃん！

しょうがない……この身体は放課後にでも楽しもう



「いっ…」

制服を着るとなると…いっ

まるで」●…

学校に行けばもっとたくさん…

「楽しみになってきた♡」





なんかすごいドキドキしてきた…
入っていいんだよね？
いつも通ってる場所の感覚なんだけど…
なんだこの不思議な感覚…
この感覚もすぐになれる気はするんだけど…



「あつ……」
「ん？」
すごい……本物のJ……



莉乃(りの)

栗(しずく)

「お！日向！おはよう！」

「おはよう！」

「あっ……」

「この子たちは……」

「知らないはずなのに知ってる……」

「莉乃と栗だ……」

「お、おはよう……」



「今日はゆつくりだったね？」

「え？ああ……ちよつとね……」

「休むんじやないって話してたんだよ？」

「あつ……なんで？」

休むわけじゃないじゃん……

女の子に会えるのに……



「だって、今日プールあるから」

「ダルいって思ってるかもって…な!」

「え? プール!?!」

「ん? ああ、先週から始まってるじゃん?」

「ああ…そ、そうだった…」



え？プール？
じゃあ、この子たちと……一緒に……？
マジ？本当に？
最高じゃん！？



「何？ニヤついて？」

「え！あつ！いや、べ、別に！」

「ん？なんか変だぞ？」

「大丈夫？」

「うん！全然！大丈夫！」

「そう？ならいいんだけど……」

やばい…まさか、プールがあるなんて…
どうしよう…すごいドキドキしてきた…
いいんですか？一緒にプールなんて



前まではそんなことあるわけもないし
最後に女の子と入ったのって…
子供の頃…だな…
早く時間にならないかな？



「日向」

「ん？」

「ほら、早く行くぞ？」

「休み時間のうちに着替えないと間に合わないよ？」

「あつ……うん」

着替え……？





あつーそうか！着替えがあるんだ！

そうだよな……水着に着替えないとだよな……

「やつとだな？」

「ええ……」

「ん？」



「日向、暑くないの？」

「やっど水で涼めるじゃん？」

「あつ……ああ……そうだね！」

「やばっ……心読まれたかと思った……」



「ふう…あつ…」
「おお…」
「●の生おっぱい…」
「ん…う…」
「早く着替えないと怒られるよ？」
「あつ…うん！き、着替えるよ」



ちよつと恥ずかしいな...って
お、おおお、おま●こ!!
全裸!?!
目の前で女の子たちが...
やばい...こんなの勃っちゃう!
って...そうか、もう男の身体じゃないんだ!



「最近、また水着がきつくなったな...」
「お？またおっぱいデカくなった？」
「好きな人に毎晩揉まれてるのか？」
「うるさいな、そんなんじゃないよ」
「何このトーク...最高なんだけど...」



「莉乃だつて…最近大きくなつてない？」

「ん？わかる？」

「いい感じに育ってきたよね？」

「莉乃も…揉まれて…？」

「も」つて…「緒にしないだよ」

「ん？気になる？内緒♡」

『もう、教えてよ』
気になる！気になる！
教えてくれ！
J●のその辺の事情！
『だいたい、日向こそ…』





「ひゃー!」
「こんなに寒らせて♡」
「あんたこそ、好きな人とやってんじゃない?♡」
「ちよ、ちよっ!」



「ほら♡白状しな?♡」
「待つて!そんな事...無いから!」
「触られる...結構激しめに...!!」
「莉乃の身体...柔らかい」
「こんな薄い布じゃ...ほぼダイレクトに感じる...」



「わ、私…そんな経験…ない…んっ!」
「無い?♡本当かな?♡」
悪魔となら…でもあれはこの身体じゃなかった…
どうなるんだろ?
「ん?ん?怪しいな?♡」
「もしかして、今日、遅れてきたのって…♡」

おちおち

モジッ

モジッ

ハッ

ハッ



「ち、違うー！そうじゃ無いからー！」
「動揺してる？♡」
「もしかして当たりかな？♡」
「日向も隅に置けないな♡」
「やる事やってるんだね♡」
「違うったら...」



ずく

「2人とも!」

「いつまでやつのなの?」

「早くしないと怒られるよ?」

「ああ「めんめん」行くよ!」

「...うん」

やばい...このままだと変な気分になると...だった...

「日向?」

「ん?」

「何…これ？」

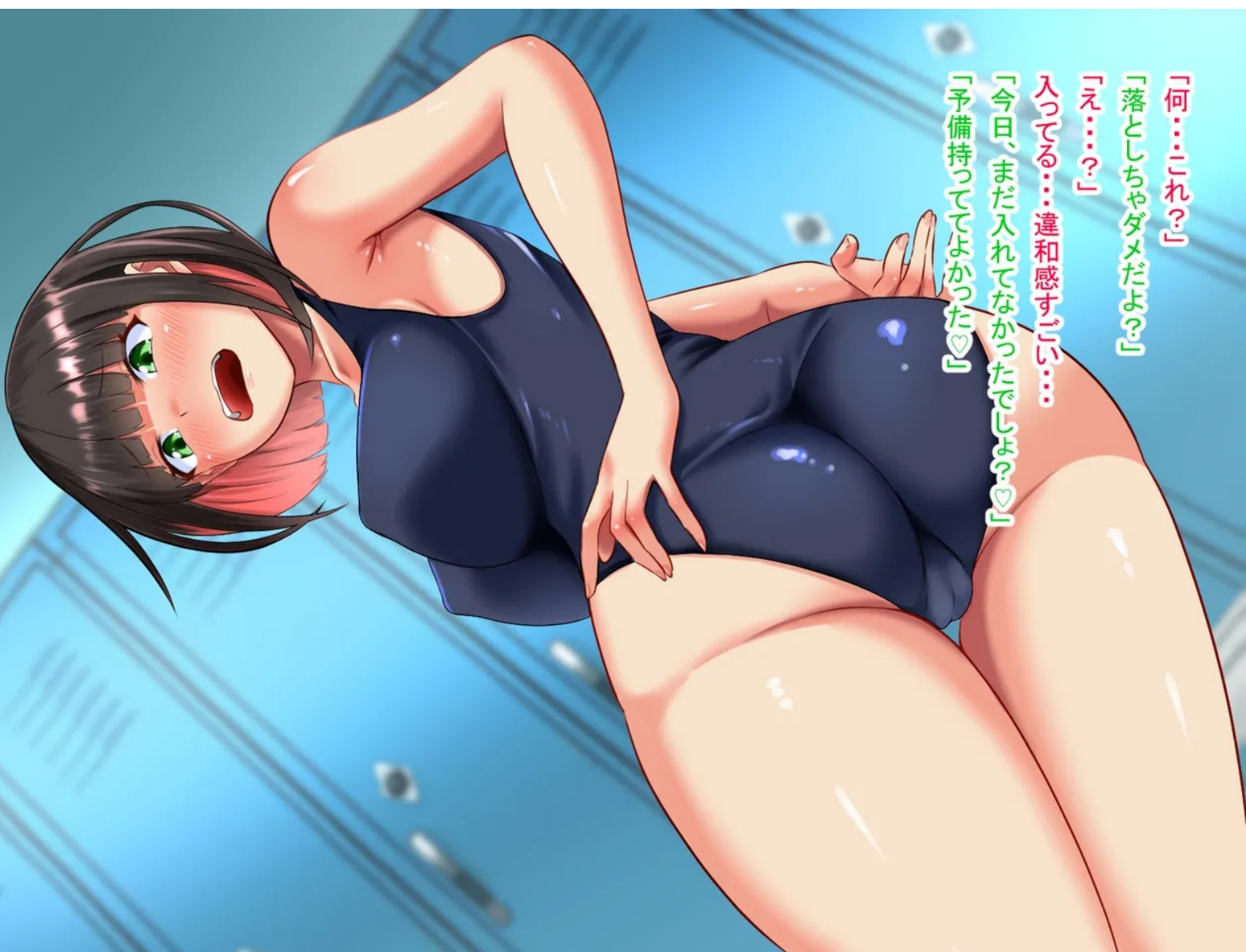
「落としちゃダメだよ？」

「え…？」

入ってる…違和感すごい…

「今日、まだ入れてなかったでしょ？♡」

「予備持ってたよ♡」



「授業中…これ耐えてね♡」

「なんで！？私が！？」

「この前決めたでしょ？♡」

「ほら♡行くよ♡」

そうなの…？そんだった気もする…

でも、バイブが…中にあるの…すごい変な気分…

大丈夫か…？





「はぁ♡♡」
「気持ちいい♡」
「うう...」
「はは♡大丈夫?♡」
「結構効いてるね」



「この時間内でいつちやダメだよ?♡」

「頑張ってね?♡日向♡」

「くっ……んっ!」

中で……すごい振動してる……

こんな感じるもの?

声を出さないようにするので精一杯だよ……

きゅん♡

きゅん♡



この身体…もしかして…
結構敏感？それとも、女の子ってそうなの？
こんな身体でエッチなんてしたら…
どうなるの…？

ペペペ





「ん？♡」

「あら♡いつちやった？♡」

「んんっ！」

「今日は耐えれなかった？♡」

「罰ゲーム考えないとな？♡」

「ふふ♡そうだね♡」

「止めて…止めて…」

びく

びく

びく

びく

『日向♡♡』

『あの後ずっとイキまわってたな♡♡』

『全然止めてくれないから…』

『みんなで並んでる時、ひとりだけビクビクしてるの面白かった♡』

マジで授業中、ずっと振動してると思わなかった…

頭がおかしくなると思った



「でも、前は莉乃がマツト運動中に……♡」
「ああ！それは言うなよ！」
「え？」
「あれ？♡思えてない？♡」
「前転した途端にしおふk……」
「わあああ！黙れ！黙れ！」
え……しおふ……潮吹き……？



「じ、零こそ…」

「ん？私は莉乃みたい派手イッてないよ？♡」

もしかして、今後こんな事が沢山…

「こいつ…思えてるよ♡」

「ふふん♡楽しみにしてるよ♡♡」

楽しみすぎる…！！



帰宅

今日はすごかった…

行ってよかった…

1日であんなに沢山の…



思い出すだけで…
お腹のあたりが熱く…
「はあ…はあ」
そう言えば…帰ったら…
するつもりだったな…



家なら…もう…
我慢しなくていいよね…
ずっと、うずうずしてた…



「はぁ♡暑い♡」

自分の身体なのになんかイケない事してみたい…
やばい…これ…ドキドキすこい

すま♡

すま♡

すま♡



「ああ……♡」
「湿ってる……♡」
「すく……エッチだな……」
「はあ♡はあ……♡」

「ああ♡」

「ああ♡」

「あッ♡」





「んっ♡ああ♡」
布越しでも気持ちいい…
これ直接…触ってもいいよね？
自分もおま●こだもん…

「おお♡」

「おお♡」

ぐちゃぐちゃ

「おお♡」

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ



「わぁ……♡」

テカテカしてる……

それに……

「ん……はぁ……♡」

エッチな匂い……♡

ぐわん

はぁ♡♡

すっ♡

ハッハッ

ハッハッ♡

ぐわん

ぐわん

はぁ♡



「あつ♡はあ……♡」

「んっ……ああ……♡」

気持ちいい……♡

ヌルヌルで……おま●こも手も……♡

全部気持ちいい……♡

ちゅ

♡

ちゅ

はっ♡

ちゅ

ちゅ

はあ♡♡

はっ♡

ちゅ

自分でしてるのに……
こんなエッチな気分になるなんて無かった
いつも、なんとなくシコってたんだな……
こんな気持ちよく……してなかった……

ドキ

はぁ♡

はぁ♡

ドキ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ





「はあ♡はあ……♡」

「すっ♡…きもち…♡♡♡♡♡」

「ああ♡はあ……♡」

止めれない……かも♡

くちゅ

すあ♡

くちゅ

すっ♡

くちゅ

くちゅ

すあ♡♡

すっ♡

くちゅ



「あんっ……♡」
「んんっ♡はああ♡」
「どんどん……どんどん濡れる……」
「私……ひとりですごく……気持ちよくなってる……」

ぐちゃ……

ぐちゃっ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ



莉乃…雫…

「はぁ♡んんっ…♡」

2人のことを考えて…私…オニーしてるよ…♡

2人ともっと…もっと…エッチなこと…したい…♡」

「したい…♡エッチしたいよ…♡」

ざわ

はっ♡
ぐちゃ

ぐちゃ♡

びくん

ちゅ

ちゅ

びくん



「い、イクッ……♡」
「莉乃……乗……♡」
「イっちゃう……♡」
「んんっ♡はあ♡はあ♡」
「うっ」
「やばい……やばい……」

くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

きゅ





翌日

「今日も楽しい日になるといいな♡」
「さて、行くか♡」



「でさ」

「あはは！それはウケる！」

おっもう居るね♡

さて、朝のご挨拶に…





「おはよう!」
「ひっ!?!」
うん♡いいお尻♡



「ひ、日向……」

「びっくりした……」

「ふふ♡そうっ♡」

「で、早くお尻から手離してっ」

「ん？よく聞こえないっ♡」

「だから……手を……」

サッ

サッ



「んっ？」
「え？手を……っ♡」
「うっ♡」
ああ……すべすべしてて気持ちいい♡



「ちよつ……まつ……」

「ううん♡かわいいお尻だね♡」

「は、入ってる……入ってる……」

「ん？何？♡」

「ちゃんと喋ってくれないとわかんないよ……♡」

くちゅ

くちゅ

くちゅ

びく

びく

びく

びく



「あれ？♡♡♡♡♡」
「んんっ！？」
「なんか…湿っぽい？♡」
「や、やめっ…んっ！」
「だ、ダメッ…！」



「にひひ♡」

「はあ…はあ…」

「日向…」

「ごめんね♡」

「あはは！朝から元気だね」



「莉乃！隙あり♡」
「え！？ちよっと…?」
「朝の挨拶だよ♡」
「布ごしで触るおっぱい♡」
「最高にえっちでいいね♡」



「莉乃のおっぱい柔らかくて好きだな〜♡」
「わ、わかったから離せて…!」
「やだ♡こんなに触り心地いいのに♡」
「もっとおっぱい触ってたい♡」



「あんなり…触ると…んっ!」
「んん?♡触ると?♡」
「エッチな気分になる?♡」
「だめっ…だって…っ!」

はあ♡♡

はあ♡♡

もっ

もっ

もっ

どく

はあ♡♡



「どうなるの?♡」

「教えて?♡」

「カリカリ♡」

「こんなに乳首勃たせて♡」

「あつ♡はあ...くっ♡」

ドキ

ドキ

カリ♡

カリ♡

びくっ♡

びくっ♡

カリ

カリ

サマッ♡



「もうエッチな気分になっちゃった?♡」

「まだ朝なのに?♡」

「莉乃って変態なのかな?♡」

「お前な...っん!」

「いい加減に...」

「すっ♡」

「すっ♡」

「すっ♡」

「すっ♡」



「あー!」
「はあ...はあ...」
「日向...お前...」
「もう知らねえからな...♡」
「ああ...莉乃?」





「あーっ」
「かわいさおほいなんだよぉ♡」
みんなの前で...?
ざわついているのが分かる...
どっぴゅっ...

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

「み、みんな見てるから……」
「見せつけやろうや?♡」
「どうせみんなも見たいって思ってるんだから♡」
アソコが熱くなってきた……
莉乃のも……伝わってくる……

ドキ



すー♡

すー♡♡

すー♡

「はあ♡はあ♡」

「んっ♡ちよつと待って...」

「これ...恥ずかしいよ...」

「いいじゃん♡もつと恥ずかしいことになるんだから♡」

「擦り合ってるだけで...全身に電気が走るみたいだよ...」

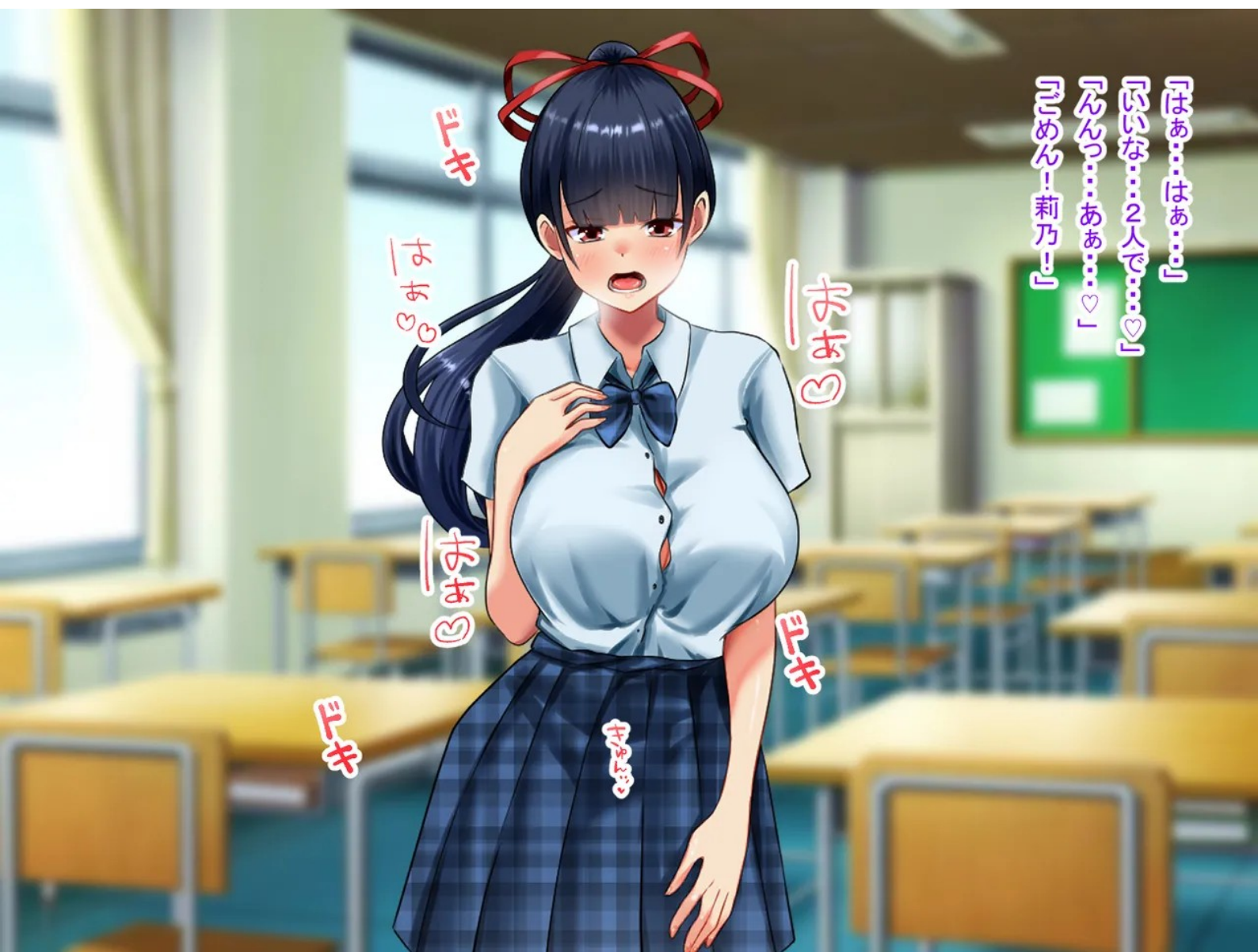
ズイ...
ズバ♡

ズバ♡

ズバ♡



「もうダメっ♡」
「やめれなくなってきた♡」
「日向……♡お前の責任だからかな？♡」



「おいおい…」

「我慢できない♡」

「私も気持ちよくなりたいから♡」

「どう？♡日向♡」

「パンツ越しより生がいいよね？♡」



「あつ♡ああ♡はあ♡」
「もうこんなになってるなら♡」
「すぐに気持ちよくなるね♡」
「ちよっ…し、雫…んっ♡」
「な、なんだこの状況…?」
「自分が撒いた種ってこと…?」





「すごく熱くなってきた♡」

「でも…すごくそれが気持ちいいね♡」

「じ…震…」

「ああ♡はああ♡いい♡♡」

「す…じゅ…♡♡」

「めっちゃ腰動いてるじゃん♡♡」

「じゅ…じゅ…」

「じゅ…じゅ…」

「じゅ…じゅ…」

「じゅ…じゅ…」

「じゅ…じゅ…」

「す…♡」

「じゅ…じゅ…」



「みんなに見れながら……♡」

「私たち……エッチしてるよ♡」

「教室で……こんなこと♡」

「やばいね♡すぐエッチ♡」

「はぁ……あ♡ちよとだけ……待って」

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

ぐちゃ

はぁ♡



「うん♡無理♡」

「もう止めないよ♡」

「このまま最後まで気持ちよくなりたい♡」

「一緒に最高に気持ちよくなるうん♡」

おっぱい♡

お尻♡

ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ



「好き♡日向♡」

「日向好き♡」

すごい…これ…

それに…雫が…

めっちゃかわいい…♡

こんな風に…犯される感じ…

意外と好きかも…♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ちゅん

ぐちゃっ

ぐちゃっ

あれ？莉乃もなんか脱いでる！？

「私も…早く混ぜてよ♡」

「ふたりばかり気持ちよくなってるいよ♡」

「ふふ♡いいよ♡」

「3人で気持ちよくなるう？♡」

はあ♡

ドキ

ドキ

はあ♡

くしゃ

くしゃ

くしゃ





びくん..

びくん..

すっ♡

くす..

すっ♡

すっ♡

「あっ♡おお♡」

「やばっ♡気持ちいい♡」

「朝からこんな気持ちいいことしてるなんて♡」

「おかしくなっちゃうわ♡」

くす..



ドキ

ふい
く

はっ
♡

はっ
♡♡

く
く

ドキ

「ダメっ♡もう…♡♡」

「イっちゃう♡♡♡♡」

「みんなの前でイっちゃうよおお♡♡」

く
く

く
く



「にひひ♡「れす」♡」
「こんなにぐちゃぐちゃに♡」
「もう誰ののか…わかんないね?♡」
「もっ♡…もっ♡ぐちゃぐちゃに♡」



「んんっ!♡」

「気持ちいい♡♡♡」

「頭おかしくなっちゃうね♡」

「もう今日はこのまま、ずっと♡」

「みんなでシテたい♡♡」

びくっ

くちゅ

びくっ

くちゅ

おっぱい♡♡

びくっ

おっぱい♡

おっぱい♡



「はぁ♡あぁ♡」
「す、すごい♡」
「こんなに気持ちいいの初めて♡」
「私も…もつと沢山…♡」
「沢山、エッチしたい♡」



「みんなで…♡」
「みんなで一緒に♡」
「一緒に♡」
「もう…我慢できないよ♡」
「イクッ…イクッ♡♡♡♡♡」

はっ♡

ぐちゃ♡

ぐちゃ♡

はっ♡

ぐちゃ♡

はっ♡







「はあ...はあ...♡」
「んっ...ああ♡」
「じゅ...じゅ...い...」
「気持ち良かった...ああ♡」



「やばっ……♡」
「教室で……やっちゃったな……♡」
「これ……どうしよう……♡」
「私たち……とんだ変態だな……♡」



「もう……どうだっていいよ♡」
「気持ちよかったし……♡」
「またみんなでしちゃうっ♡♡」



「日向……お前……相当変態だな……♡」

「莉乃もそうでしょ？♡」

「あはは♡」

「はあ♡面白……♡」

「この世界に来てよかった……♡」



グイン

「ちよとー…何やってるのー」
「あつ」
「先生!?!」
「これは…」
「楽しい生活になりそう…」
「ありがとう…悪魔…」



読んでいただきありがとうございます！

次のページにもお楽しみください！

おへい





















































































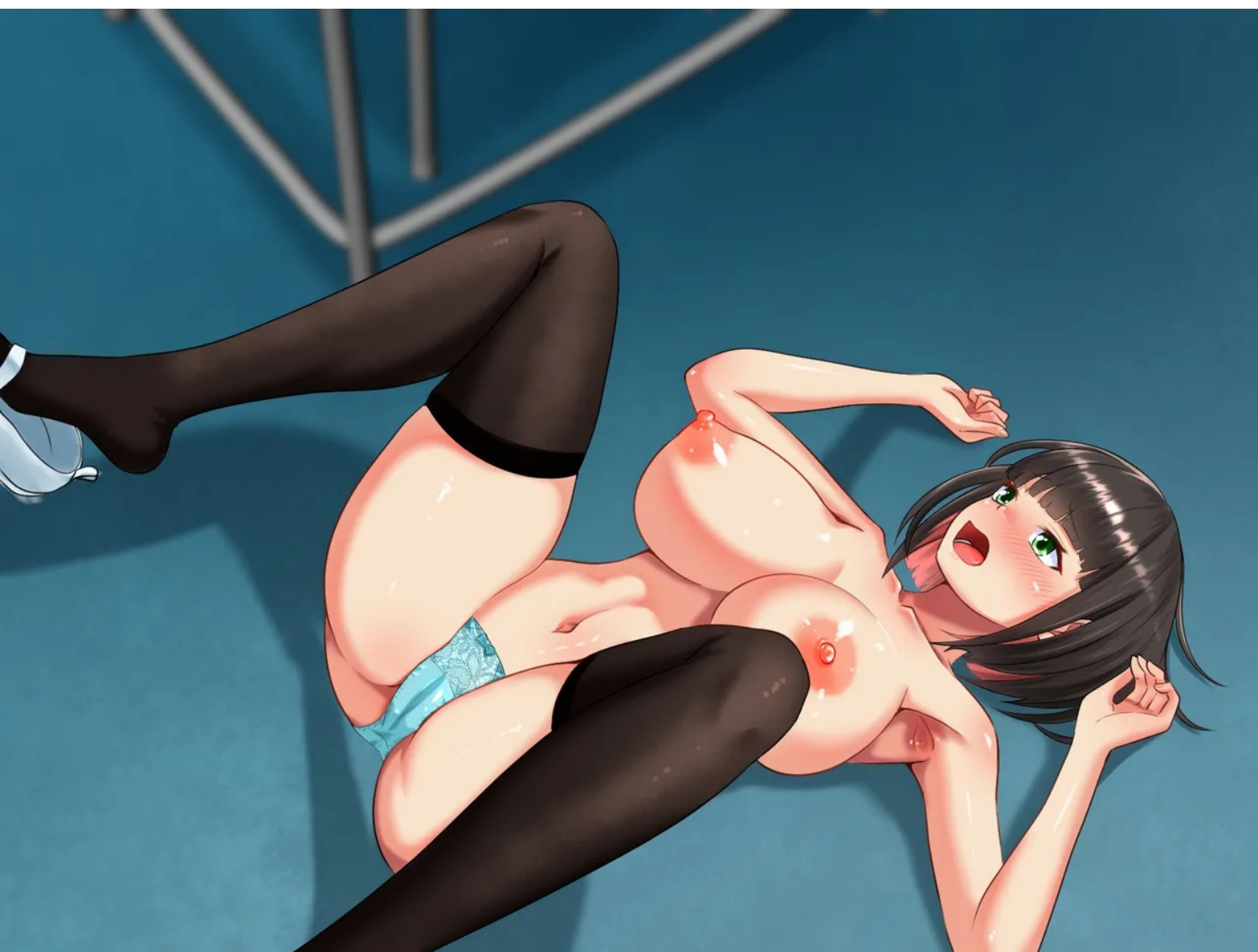


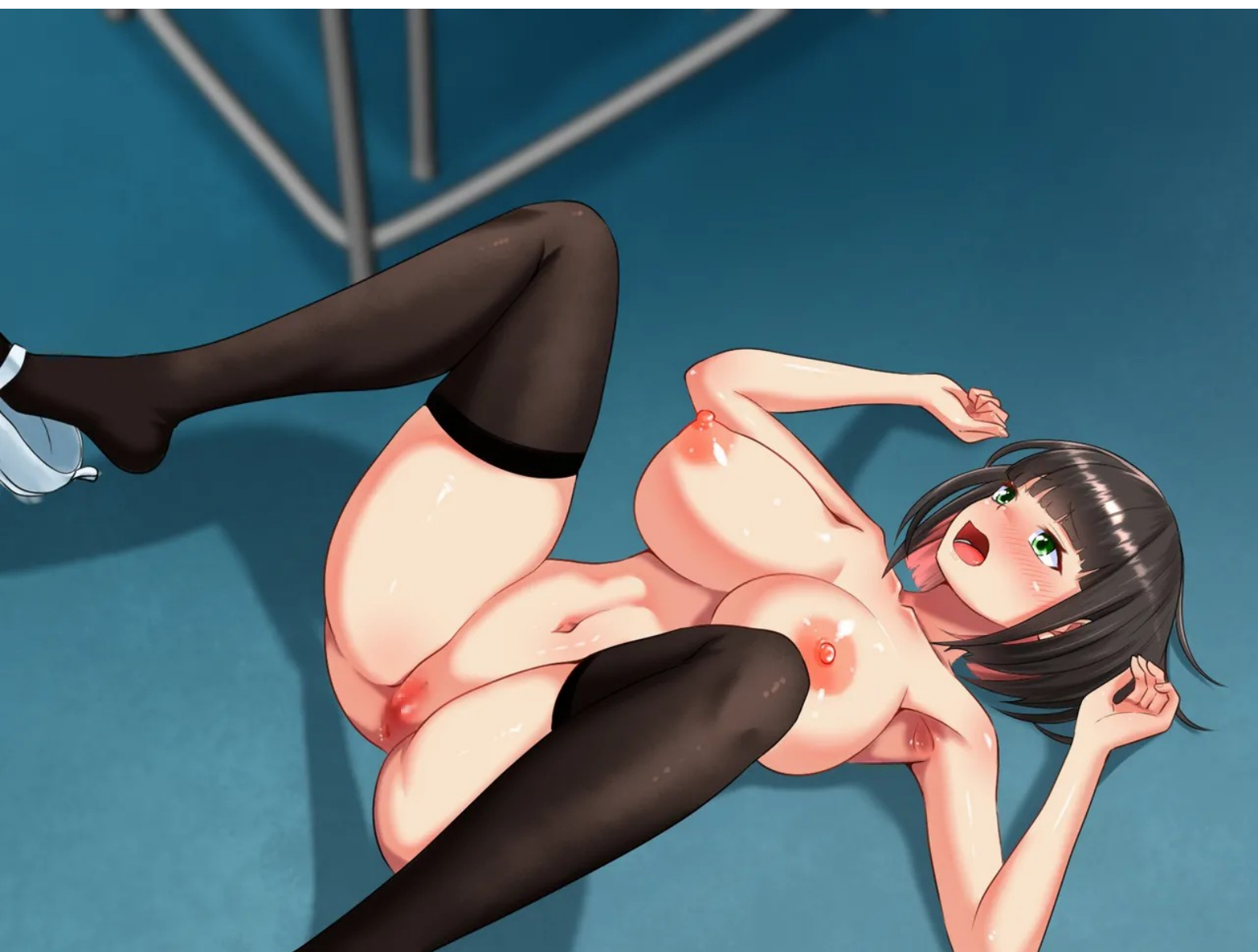
































雫



莉乃



日向



悪魔



雫



莉乃



日向



悪魔